

16. シクラメン

・殺菌剤

FRACコード	薬剤名	使用方法	使用時期	使用回数	備考
41+25	アグリマイシン-100	散布	葉組み時	8回以内(但し、土壌灌注は4回以内)	
1	トップジンM水和剤	散布	-	5回以内	
25+M1*	ドーマイシン水和剤	散布	-	4回以内	
BM2	ボトキラー水和剤	鉢外投入	発病前～発病初期	-	花き類・観葉植物
M1*	キノンドー粒剤	土壌混和	鉢上げ時又は鉢替え時	1回	
	キノンドー水和剤40	葉柄基部散布	発病初期	4回以内	

・殺菌剤 (参考農薬)

FRACコード	薬剤名	使用方法	使用時期	使用回数	備考
M1*	(有機銅)オキシンドー水和剤80	散布	発病初期	5回以内	
	キノンドーフロアブル	散布	発病初期	4回以内	
M3	ジマンダイセン水和剤	散布	-	1回	
3	ヘルシード乳剤	散布	発病初期	6回以内	シクラメン (施設栽培)

・殺虫剤 (参考農薬)

IRACコード	薬剤名	使用方法	使用時期	使用回数	備考
14	パダンSG水溶剤	散布	発生初期	5回以内	

- 注1) 使用回数はその薬剤の使用回数を記載しており、この他に薬剤に含まれる成分毎に、総使用回数が決まっているので、農薬ラベル等を確認してそれを超えないように注意する。  
 注2) 薬剤抵抗性の出現を防ぐため、「FRACコード」や「IRACコード」を参考にしながら他系統剤とのローテーション使用を心掛ける(「薬剤抵抗性管理」参照)。  
 注3) 農薬登録上の作物名が標記の作物名と異なる場合、備考欄に記載した。

病害虫名 (F:菌類病、B:細菌病、V:ウイルス病、O:その他の病原体)

病害虫名	防除時期	防除方法	注意事項
萎凋病 (F)	は種時前 鉢替前	1. 培土は蒸気消毒などを実施して無病土を必ず用いる(土壌消毒の項参照)。 2. 育苗箱や鉢は徹底的に洗浄する。	1. 発病して枯死した鉢は直ちに処分する。
葉腐細菌病 (B)	は種時前 鉢替前	1. 培土は蒸気消毒などを実施して無病土を必ず用いる(土壌消毒の項参照)。 2. 育苗箱や鉢は徹底的に洗浄する。	1. 夏季の鉢替え作業が発病を助長する。 2. 本病は細菌性病害であるので、各作業後に予防的に薬剤処理を行う。
	鉢上げ時 又は鉢替時	1. キノンドー粒剤を1鉢(用土約1リットル)当り5~10gを培土に混和処理する。	
	鉢替後	1. キノンドー水和剤40の5倍液を、鉢替直後から1ヶ月間隔で葉柄基部に散布する。	
	葉組み時	1. 葉組み作業直後に薬剤を散布する。 2. アグリマイシン-100の1,000倍液を散布する。	1. 夏季の高温多湿時の散布は葉害(クロロシス)を生じやすいので注意する。

病害虫名	防除時期	防 除 方 法	注 意 事 項
軟腐病 (B)	鉢 替 時	1. 培土は蒸気消毒などを実施して無病土を必ず用いる（土壌消毒の項参照）。 2. 育苗箱や鉢は徹底的に洗浄する。 3. 施設内が過湿にならないよう換気を図る。 4. ドーマイシン水和剤 500 倍液を発病初期から予防的に散布する。	1. ベンチ下に被覆資材を敷くなどして土の跳ね上がりが起こらないように注意する。
炭疽病 (F)	生 育 期 間	1. 培土は蒸気消毒などを実施して無病土を必ず用いる（土壌消毒の項参照）。 2. 育苗箱や鉢は徹底的に洗浄する。 3. 施設内が過湿にならないよう換気を図る。 4. 発病を見たら、直ちに罹病部を除去し、薬剤を散布する。 [参考農薬] 1. キノンドーフロアブル、ジマンダイセン水和剤、ヘルシード乳剤の 500 倍液、オキシンドー水和剤 80 の 1,000 倍液のいずれかを散布する。	1. 窒素過剰は発病を助長するので注意する。
灰色かび病 (F)	生 育 期 間	1. 施設内が過湿にならないよう換気を図る。 2. 発病を見たら直ちに罹病葉を除去し、薬剤を散布する。 3. トップジンM水和剤 1,500 倍液を散布する。 4. ボトキラー水和剤を 1 日当り 10～15g/10a ダクト内投入して飛散させる。	1. 薬剤耐性菌の出現を避けるため同一系統薬剤を連用しない。 2. ボトキラー水和剤のダクト内投入に関しては「27. ボトキラー水和剤のダクト内投入処理をする場合の注意事項」を参照する。
黄化えそ病 (TSWV) えそ斑紋病 (INSV) (V)	生 育 期 間	1. ウイルス感染苗による伝播は広範囲に及ぶため、育苗時のウイルス感染に厳重注意する。 2. アザミウマ類の飛来・増殖を徹底的に阻止する。そのために、ハウスの開口部に防虫ネット(0.4mm 目合い)を使用する。また、ミカンキイロアザミウマの項、又は「25. 花き類・観葉植物」の項を参考に、殺虫剤を定期的に散布する。 3. ハウス周辺の雑草は伝染源になるので、定期的に除草する。 4. 罹病株から順次二次伝染が起こるので、発病株は早期に除去し、ほ場外に埋却する。	1. いずれのウイルスも、アザミウマ類により伝搬される。 2. 両ウイルスには簡易診断キットが市販されているので、それらを用いて診断可能である。
ミカンキイロ アザミウマ	生 育 期 間	1. 施設開口部を防虫ネット (0.4mm 目合い) で被覆する。 2. 周辺の雑草が発生源になるので、除草に努める。 [参考農薬] 1. パダンSG水溶剤 1,500 倍液を散布する。	1. パダンは蚕毒及び魚毒に特に注意する（特別指導事項参照）。